

## 発達初期の理解語彙の獲得 ( )

### 質問紙調査 (1)

発達科学研究教育センター 田中規子

発達科学研究教育センター 藤永 保

発達科学研究教育センター 阿部五月

## Understanding of Language in Early Development ( ) - Questionnaire Survey(1) -

Center of Developmental Education and Research TANAKA, Noriko

Center of Developmental Education and Research FUJINAGA, Tamotsu

Center of Developmental Education and Research ABE, Satsuki

赤ちゃんはおなかの中にいるときから母親の声を聞いている。そして、生まれたのちにもたくさんの言葉をかけられて育つ。では、赤ちゃんはいつ頃からそのことばの意味を理解するようになるのであろうか。本研究では前言語的音声・指さし・身振り等を中心に、ことばを発する前の言語理解について調べることを目的とする。調査は前言語的音声・ことばの意味の理解・単語の理解・短文の発話の4項目からなる質問紙を作成し、3歳未満の乳幼児(障害児は3歳児以上も含む)の親を対象に行った。普通児と障害児間に有意差を生じる項目は、言語発達の重要な指標となる可能性がある。本稿ではフェースシート項目についてのみ報告し、自由記述を含む詳しい分析結果は第2稿で述べる。

**【キー・ワード】** 前言語的音声, 指さし, 身振り, 理解語彙

A baby is hearing a mother's voice while it is growing in her womb. And from birth it grows up with many words spoken to it by its mother. When does a baby learn to understand their meanings, then? The aim of this study is to investigate how a baby understands language before learning to speak, which centers on pre-linguistic vocalization, pointing, and gesture. We made up a questionnaire which consists of 4 parts that are pre-linguistic vocalization, understanding of language, understanding of words, and producing of short sentences. And we carried out the questionnaire survey of the parents whose children are under 3 years of age and the parents whose children are handicapped. The items which cause the significant differences of the data between normal and handicapped children may be important indicators of language development. In Study 1 (this paper), we described face seat items. Other items are examined in detail in Study 2.

**【Key Words】** Pre - linguistic vocalization, Pointing, Gesture, Understanding of words,

## Questionnaire survey

## 序 文

赤ちゃんは生後2ヶ月頃からクーイングと呼ばれる声を出し始め、6ヶ月以降になって喃語と呼ばれる発声をするようになる。1歳頃になって、マンマ、ワンワンなどいわゆる言葉を発するようになる前に、実は様々な発声を積み重ねているわけである。本研究ではそうした前言語的音声や他者とのコミュニケーションに注目することにより、発話以前の言語理解がどのように進み、発話につながっていくのかを明らかにすることを目的とする。また、発話以前の言語理解の過程が明らかになることにより、乳幼児を対象とした言語発達検査の作成ができれば、言語発達遅滞児の早期発見と早期療育の開始につながるとも考えられる。今回の調査方法は、質問紙調査と訪問による個別調査の2通りとし、個別調査では親子のコミュニケーション場面の観察や母親の記録等をもとにより詳しい分析を行い(阿部他, 2001)、2つの研究方式が相互に補い合ってより明確な結果が得られることを期待している。

## 問 題

乳幼児を育てている母親にとって気になる発達の節目がいくつかあるとしたら、次のようなことが挙げられる。発達の順に並べて見ると、首がすわる、寝返りができる、お座り、ハイハイ、つかまり立ち、歩き始め、初めてのことばなどである。このうち、最も個人差が大きく、親にとって心配の種になるのがことばに関することである。1歳を過ぎる頃から同年齢の子どもを見る機会が増えることも心配になる理由の1つであろう。秦野(2000)によると、保育園・幼稚園の巡回相談でも最も多いのはことばに関する相談であり、その理由として発達上に何らかの問題があると表面的にはことばの問題としてとらえられやすいことを挙げている。ことばの問題はことばだけにとどまらず、思考や認識といった高次の機能と密接にかかわっていることから重要である。1歳半の健診でもことばの相談は目立って多い。よくあるケースに、家の中ではコミュニケーションがとれていて、子どもとの日常的なやりとりには何の不自由も感じていないのだが、あらためてことばはいくつくらい話せるかと聞かれると何もなくて不安になったというのがある。この場合、子どもはことばを話すことはできないが、日常生活の中で親の話すことばの意味は理解しており、自分の欲求も何らかの方法で伝えることができている。0歳後半から1歳くらいのこどもに接したことがある人なら誰でも、子どもはことばを話すようになるずっと前からことばの理解ができていること、また、子どもがことばを使わなくても意思の疎通があることに気付くであろう。このような耳で聞いて理解できることばは理解語彙と呼ばれる。1歳半健診では、この理解語彙があるか否かが指さしの有無と並んで重要なポイントの1つになっている。つまり、聴覚や発声器官に問題がある場合は別として、1歳半の時点で発話はなくても言語の理解ができていれば、個人差の範囲としてもう少し様子を見ることができ。しかし、理解語彙がほとんどなく、発話もない場合は知的な遅れなどの可能性もあり、早期の診断や療育

が必要となる。

このような意味で理解語彙は重要な概念であるが、発語の有無にくらべて真偽が確かめにくいという問題がある。たとえば、家の中ではいろんなことがよくわかっていると母親が報告した場合でも、本当にことばの理解ができているケースなのか、それともその場の状況や母親の表情などから判断しているケースなのか、慣習動作なのか、母親の話だけではわからないことも多い。表情、身振り、声の調子などの補助的な手がかりと状況的文脈の果たす役割は年少児ほど大きいのである。では、発語はないが理解はできている、ということをしてどのようにして把握したらよいのであろうか。乳幼児の発達検査の中では「言語理解」という項目で理解語彙の有無について検査されることが多い。比較的よく利用されている発達検査の言語理解の項目をみると、大人からのことばかけに対してどのような反応を示すか、または適切な行動がとれるか、といったことで判断しようとしていることがわかる。（資料 1 参照）1 歳半健診で簡単な用事ができるかを尋ねるのもその例であり、“これをゴミ箱に捨ててきて”などができれば、ことばの意味を理解していると考えるのであるが、ここには検討の余地が残っている。

赤ちゃんがことばを理解するようになるまでには、さまざまな機能の発達が見られる。最初に音声知覚の面では、赤ちゃんはまず母親の声を知覚する。生後 1 日目に母親の声と他の女性の声を区別できることを示す研究もある。また、生後まもなくから、音のする方を見ようとするのがわかっている。これは、生得的に視覚と聴覚を協応させる能力を備えていることを示すもので、母親の声を聞くとともに、口の動きや表情などを知覚することは、言語獲得に非常に役立つことであろう。一方、赤ちゃんは生後数ヶ月の間、母語の音韻体系の制約を受けず、あらゆる音韻を弁別するような言語普遍的な音韻知覚能力を示すことがわかっている。そして、それはだんだんと母語の影響を受けた知覚特性へと変化し、10 ヶ月頃までには母語にない音韻に対する弁別能力は減少する。これは、赤ちゃんが耳で聞いた言語を母語の音韻体系の枠内で処理しようとしていることの現われであろう。

次に、音声の表出はどのように変化していくのであろうか。1 歳頃になってことばを話すようになるずっと前から赤ちゃんはさまざまな音声を発しており、それは前言語的音声とも呼ばれている。赤ちゃんは生後 6~8 週間くらいから、おなががいっぱいで非常に気分の良い状態のときなどに、「アー」とか「クー」とかいうリラックスした声を発するようになる。これはクーイングと呼ばれる音声である。一方、6 ヶ月すぎから聞かれるようになる喃語は、音節が複数あることと、各音節が子音 + 母音の構造を持っていることでクーイングと区別される。赤ちゃんはかなり小さいときから母親の話しかけに対してクーイングや喃語で応答しており、乳児と母親が掛け合いのように対話する様子はよくみられることである。また、このような親子の相互作用が言語獲得において重要であることは言うまでもない。母親の赤ちゃんに対する会話の内容を調べた研究からは、赤ちゃんの活動の変化によって、母親の会話のトピックスが変化することがわかっている。また、7 ヶ月の赤ちゃんに対する会話でも赤ちゃんの凝視する方向の変化が母親の話題の手がかりになっていることを示す研究もある。

さらに、共同注意の成立においても親子の相互作用は重要である。バターワース(1994)によれば、生後 6 ヶ月の乳児が母親の視線を追従できることがわかっている。つまり、母親が見ている方を乳児も見ようとするということである。また 0 歳後半になると指さしが発生する。指さしができるように

なると、赤ちゃんはいろいろな対象を指さし、その都度母親がその同じ対象を見ているか、注意を共有しているかどうかを確認する。この「指さし+確認作業」にはいつも発声が伴うこともわかっている。また別府(1996)は、自閉症児ではこの共有確認行動がほとんどみられないことを示している。

やまだ(1998)はこのような自発的指さしを機能の面から、(A)感嘆・共有、(B)叙述、(C)交流、(D)質問、(E)要求の5つに分類し、さらに、(A)と(B)は共同注意機能、(C)、(D)、(E)はやりとり機能という上位の機能に分けている。そして、これら指さし機能の発達プロセスについて、指さしの中にはことばに置き換わっていく身振りもあるが、そうでない身振りもあり、すべてが前言語ではない。身振りを直ちに身振りことば(やまだは「身ことば」という語を用いている。)に置き換え、言語よりも発達的に低次の行動と位置づけてはならない、と述べている。

また、指さしに関しては、生後9ヶ月と12ヶ月半の間に産出された指さしの頻度が生後2年目の話しことばとサインにおける語彙量との間に正の相関がみられるという報告もあり、言語発達における指さしの意義について検討していく必要があるだろう。

次に、幼児語に多い擬音語・擬態語についてであるが、荻野・小林の遊び場面の観察によると、母子の言語の関連では、13ヶ月で子どもの「発話(声)総数」および「模倣」が母親の「擬音・擬態語」と正の相関がみられた。また、慣用操作(物の特徴や機能に合った使い方をする動作)と物の名前の獲得の関係についての研究では、慣用操作の出現は事物名称の出現に先行することが確かめられ、慣用操作のみをする段階から一歩進んで、事物名称を獲得する前の一段階として慣用操作の言語表現がある、と考えられた。この慣用操作の言語表現には擬態語・擬音語が使われることが多い。さらに母親のインプットの際に特殊動作(対象事物に特殊化された動作)と擬音・擬態語、動作語を複合的に提示する傾向が子どもの言語獲得を促しているとも考えられると述べている。

また、遠矢(1998)は、擬音語・擬態語は乳幼児の喃語から自然発生的に現れるのではなく、発達の各段階で子ども自身が発することのできる音声を子どもなりに組み合わせることによって作り出される「創造物」であるとし、自分の「からだの感じ」にもっともフィットする音声を抽出し構成したことばであると述べている。そして、運動障害児のリハビリテーションでは経験豊富なセラピストほど擬態語を頻繁に用いることを明らかにし、動作を記憶するという行為に力を入れる感じを表す擬態語を伴わせることで運動記憶が促進されることを示唆する結果を示している。

発語の遅れている子どもに対することばかけにおいても動作などに擬音語・擬態語を添えるという形は多く用いられている。この点からも遠矢が述べているように、擬音語・擬態語は大人が考えるほど単純で幼稚なものではなく、より詳しい研究が待たれる。

以上のように、言葉を話すようになる前には、いろいろな機能が登場し、さまざまな道筋で変容し発達していくことがわかっている。やまだ(1998)が「両行」発達観と言っているように、いくつかの機能が相互に影響をもちあいながら衰退と増加をくりかえしていく複数の発達プロセスを考慮に入れてことばの発達を捉えていく必要があるだろう。本研究では、言葉を発する前のこどもの発声や身振り、意思の伝達方法などを中心に、ことばの理解がどのように発話につながっていくのかを考えていきたい。

現在言語障害児の比率は約7%にも達すると言われている。初めに述べたようにことばの発達に関

する親の不安は大きく、特に問題のないケースも含めるとかなり多くの親が心配をかかえていると思われる。このような子どもに対して、比較的簡単に使えて正確にことばの発達水準を測定でき、さらに遅滞や障害の早期発見を可能にするような言語発達テストがあれば非常に有効だと思われるのだが、従来のテストでは適応年齢が3歳以上であったり、発語中心であったりという偏りがある。また、知能テストの言語の項目や図版などには改定がなされないままになっていて、正確な測定ができないものもある。最近のものでは、フェンソンらが開発した「マッカーサー乳幼児言語発達質問紙」があり、これは身振り等も含めた新しい測定法である。小椋ら（1998）によって日本語版の標準化がすすめられており、興味深い。以上のようなことから、本研究では、年少児から使用できる言語発達テスト作成の基礎データを得ることを目的の1つとする。

ことばの発達は、発語だけではなく、音声と身体運動、喃語、身振り、他者とのコミュニケーション能力、言語理解、言語環境など多面的に捉えていく必要がある。ことばを話さない赤ちゃんのどんな反応をどのように解釈するのか、困難なところも多いが、障害児教育との関連も含めて今後の課題であろう。

## 方 法

### 1. 質問紙の作成

フェースシート項目に続いて、次の4部からなる「乳幼児言語発達調査」を作成した。（資料2参照）

#### 前言語的音声について

言語を発する以前の発声（クーイング、喃語）について、いつ頃どんな声を出していたか、初めて笑った時期、歌や映像への興味の示し方等を質問した。初めてのことば（初語）については、何という言葉を出したか、いつ、どのような状況で出したかを尋ねた。

#### 言語理解について

ことばを発する以前の言語の理解やジェスチャーによる意思の伝達について具体的な項目を挙げ、それがいつ頃みられたかを尋ねた。また、子どもの様子を見ていてことばの意味が理解できていると思われる事柄について、自由記述で答える欄を設けた。

#### 単語の理解について

動物、虫・魚、植物、乗り物、食べ物、身体、自然、色・形、生活、その他（形容詞等）の10カテゴリーから合計93の単語を列挙し、理解を調べた。記入にあたって、完全に言える、不完全または幼児語で言える、言えないが理解はしている、言えないし理解もしていない、わからないの5段階を区別できるようにした。

#### 短い文について

二語文、三語文について、いつ頃どのような文を話したかを尋ねた。

### 2. 調査対象

調査対象は次の4群で計536名とした。

**保育園児**：東京都内の3保育園に通園している3歳未満の子ども 112名

**早期教育群**：K教育研究会独自の育児支援制度により言語と数を中心とした早期の働きかけを受けた3歳未満の子ども（全国） 110名

**学習塾生徒**：K教育研究会の教室（全国）に通っている3歳未満の子ども 126名

**障害児**：K教育研究会の教室（全国）に通っている6歳以下の障害のある子ども 188名

### 3. 調査年月 2001年10月～11月

## 結 果

調査用紙の回収状況から、今回はフェースシート項目のみの報告とする。

各群の3歳児未満の調査用紙回収数と回収率は以下のとおりであった。（表1参照）

また、各群の内訳は表2に示した。本来は3歳未満の子どもが調査の対象であったが、調査の過程で3歳以上の子どものデータも多数収集できた。これらのデータも必要に応じて分析に加える予定である。

以下、フェースシート項目の順に報告する。

#### A. 子どもについて

昼間主に過ごす場所・一緒に過ごす人（表3参照）

障害児で保育園・幼稚園に行っている割合が高く自宅で過ごす割合が低いのは、表2からわかるように他の群よりも年齢が高いことと療育施設への通園等が含まれるためである。

表1. 3歳未満の回収数と回収率

	保育園児	早期教育群	学習塾生徒	障害児
回収数(名)	54	34	99	85
回収率(%)	48.2	30.9	78.6	45.2

\* 障害児は3歳児以上も含む

表2. 調査対象児内訳(人)

	保育園児		早期教育群		学習塾生徒		障害児	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
0歳児	3	3	2	8	2	5	0	0
1歳児	10	14	12	7	20	18	0	1
2歳児	8	16	1	4	26	28	1	0
3歳児	2	3	0	1	16	21	4	4
4歳児	0	0	0	0	15	6	13	6
5歳児	0	0	0	0	7	3	19	10
6歳児	0	0	0	0	0	0	20	6
9歳児	0	0	0	0	0	0	1	0
計	59		35		167		85	

いつもよく遊ぶ友達の有無 (表 4 参照)

早期教育群で友達がいると答えた人が少ないのは、年齢が低いためであろう。

**B . 母親の就労について (表 5 参照)**

母親が働いている割合は学習塾生徒の群で特に低かった。

**C . 家族構成について (表 6 参照)**

祖父母と同居している割合、兄弟がいる割合、家族に方言を使用する人のいる割合、家族の合計人数の平均を表 6 に示した。障害児の群で兄弟のいる割合が特に高かったが、これは障害児群の年齢の高さによるものであろう。逆に早期教育群では年齢が低いため第 1 子で一人っ子という割合が高くなったと思われる。また、保育園児群の方言使用者の割合が低かったのは東京都内の保育園でのみ調査を行ったことによるものであろう。

表3. 昼間の居場所(全体に占める割合)

	保育園児	早期教育群	学習塾生徒	障害児
自宅	22.0	71.4	72.5	11.8
保育園	76.3	25.7	14.8	40.0
幼稚園	0	0	9.0	40.0
その他	1.7	2.9	4.2	8.2

(%)

表4. 友達の有無(全体に占める割合)

	保育園児	早期教育群	学習塾生徒	障害児
いる	61.0	37.1	59.9	44.7
いない	28.8	57.1	35.9	51.8

(%)

表5. 母親の就労(全体に占める割合)

	保育園児	早期教育群	学習塾生徒	障害児
働いている	83.1	25.7	19.2	30.6
働いていない	16.9	74.3	80.2	69.4

(%)

表6. 家族構成

	保育園児	早期教育群	学習塾生徒	障害児
祖父母の同居(%)	8.5	5.7	16.8	14.1
兄弟あり(%)	50.8	37.1	65.9	82.4
方言使用者あり(%)	8.5	14.3	16.8	20.0
家族の人数(平均・人)	3.8	3.5	4.1	4.3

表7. 発達状況(平均月齢)

	保育園児	早期教育群	学習塾生徒	障害児
寝返り	4.8	4.5	4.8	6.1
お座り	6.6	6.6	6.5	8.1
ハイハイ	7.4	7.3	7.6	10.2
ストロー使用	10.5	9.1	9.6	14.8
つかまり立ち	8.6	8.6	8.6	11.6
歩き始め	12.1	12.3	12.0	16.1
歯がはえる	7.4	7.0	7.4	8.3

#### D. 発達状況(表7参照)

乳児期の発達の指標となる7項目について、いつ頃できるようになったかを尋ねた。各項目の平均月齢は以下の通りである。

障害児を除く3群ではほとんど差がみられなかった。障害児では歯がはえた時期のみ他の群との差が小さく、ストローの使用と歩き始めて他の群との差が大きくなった。

### 考 察

フェースシート項目の中で注目すべき点は次の2点である。どちらも発達状況についてであるが、まず1点は保育園児、早期教育群、学習塾生徒の3群では初期の身体的発達においてほとんど差がないということである。母親の就労状況や早期の働きかけは身体的な発達には関係しないということが確認できた。また、今回の調査対象児の発達状況がほぼ同じであることもわかった。

もう1点は障害児の発達に関することである。今回の調査では特定の障害に限っていないので、主に知的障害ではあると思われるが、いろいろな種類の障害を持った子どもたちが含まれている。発達状況の表に示したように、寝返り、お座り、ハイハイ、歯がはえるの4項目では他の3群との差が比較的小さい。つまり、初期の発達においてはそれほど大きな違いはないが、つかまり立ちや歩行が始まる1歳前後になると次第に差が大きくなっていくことがわかる。これは身体/運動的な発達に関するものであるが、言語の理解においても同じようなことがあるのかもしれない。また、ストローの使用開始時期で他の3群と約4ヶ月の開きがあった。ストローは危ないという親の判断で小さいときには使用しなかったのかもしれないが、一方でストローを使って飲むための口のまわりの筋肉の動かし方や息の使い方等において困難があったということも考えられる。保健所の健診でも発語の遅れている子どもの一部にストローがうまく使えなかったり、ラップのおもちゃが吹けなかったりする子どもがいることも事実であり、ストローの使用とことばの関係については今後の課題である。

本稿では調査用紙の回収状況によりフェースシートのみ報告となったが、次回は項目ごとの詳しい分析結果を報告する予定である。



## 参考文献

- Bates, E., Marchman, V., Thal, D., Fenson, L., Dale, P., Reznick, J. S., Reilly, J., & Hartung, J. (1994). Developmental and stylistic variation in the composition of early vocabulary. *Journal of Child Language*, **21**, 85-123.
- 別府哲. (1996). 自閉症児におけるジョイントアテンション行動としての指さし理解の発達: 健常乳幼児との比較を通して. *発達心理学研究*, **7**, 128-137.
- Butterworth, J. & Harris, M. (1994). *発達心理学の基本を学ぶ: 人間発達の生物学的・文化的基盤*. (村井潤一, 監訳). 京都: ミネルヴァ書房.
- 遠城寺宗徳・合屋長英他. (1977). *遠城寺式乳幼児分析的発達検査法*. 東京: 慶應通信.
- 藤永保. (2001). *ことばはどこで育つか*. 東京: 大修館書店.
- 秦野悦子. (2000). *会話の難しい幼児たち*. *言語*, **29**, 22-29.
- 林安紀子. (1999). 声の知覚の発達. 桐谷滋(編), *ことばの獲得* (pp.37-70). 京都: ミネルヴァ書房.
- 生澤雅夫他. (1985). *新版K式発達検査法*. 京都: ナカニシヤ出版.
- 正高信男. (2001). *子どもはことばをからだで覚える: メロディから意味の世界へ*. 東京: 中公新書.
- 三宅和夫他. (1989). *KIDS (キッズ) 乳幼児発達スケール*. 東京: (財) 発達科学研究教育センター.
- 森岡健二・藤永保. (1970). *言語と人間*. 東京: 東海大学出版会.
- 荻野美佐子・小林晴美. (1999). 語彙獲得の初期発達. 桐谷滋(編), *ことばの獲得* (pp.71-116). 京都: ミネルヴァ書房.
- 小椋たみ子・山下由紀恵・村瀬俊樹. (1998). 初期言語発達インベントリーの妥当性及び語彙チェックリストの検討. *神戸大学発達科学部研究紀要*, **5**, 261-276.
- Rhodes, L. & Bayley, N. (1984). *BAYLEY SCALES OF INFANT DEVELOPMENT*. Ohio: The Psychological Corporation.
- 遠矢浩一. (1998). 擬態・擬音語とからだ. 秦野悦子・やまだようこ(編), *コミュニケーションという謎* (pp.79-98). 京都: ミネルヴァ書房.
- やまだようこ. (1998). 身のことばとしての指さし. 秦野悦子・やまだようこ(編), *コミュニケーションという謎* (pp.3-31). 京都: ミネルヴァ書房.

<資料1>

発達検査における言語理解測定項目(2歳以下)

**円城寺式乳幼児分析的発達検査**

「言語理解」	
0:6	親の話し方で感情を聞き分ける
0:9	「いけません」と言うと、ちょっと手をひっこめる
0:10	「バイバイ」や「さようなら」のことばに反応する
0:11	要求を理解する(おいで、ちょうだい、ねんね)…1/3
1:0	要求を理解する(おいで、ちょうだい、ねんね)…3/3
1:2	簡単な命令を実行する(「新聞を持っていらっしやい」など)
1:4	絵本を読んでもらいたがる
1:6	目、口、耳、手、足、腹を指示する…4/6
1:9	「もうひとつ」「もうすこし」がわかる
2:0	鼻、髪、歯、舌、へそ、爪を指示する…4/6

**新版K式発達検査**

「言語・社会」	
0:5	「イナイナイバー」(反応して微笑んだり声を出したりする)
0:6	「名前」に反応(自分の名前を呼ばれると反応する)
0:8	「チョウダイ」→渡さぬ(手を差し出して子どもの反応を見る)
0:9	「バイバイ」(声や動作で反応) 「メンメ」(禁止の言葉や動作に正しく反応)
0:10	「チョウダイ」→渡す 指差しに反応
1:0	指差し行動
1:6	身体各部(目・鼻・口・耳)…3/4 絵指示(犬・自動車・人形・茶わん・はさみ・さかな)…4/6

**KIDS 乳幼児発達スケール タイプA(1~11ヶ月)**

「言語(理解)」	
〇〇ちゃんと名前を呼ぶと、こちらを見る。	
お気に入りの音楽がかかると泣きやんだり体を動かしたりする。	
親の話し方で、感情を聞き分ける。(禁止など)	
聞き慣れない音や声をこわがる。	
「ちょうだい」と言うと手に持っている物をくれる。	
「プープはどこ？」とたずねると、こちらを見る。	
そこがない物の名前を言われるとキョロキョロと見回す。	

**KIDS 乳幼児発達スケール タイプB(1歳0ヶ月~2歳11ヶ月)**

「言語(理解)」	
「ちょうだい」というと手に持っているものをくれる。	
絵本を見て「ワンワン(いぬ)はどこ？」とたずねると指をさす。	
「新聞持ってきて」など簡単な指示に従う。	
本を読んでもらいたがる。	
目、耳、口など身体部分の名称が2つ以上わかる。	
物の名前を聞いてその絵を指摘する。	
次の品物の用途が3つ以上わかる。(くし・帽子・鏡・カップ・鉛筆)	
「机の上に置いてある新聞を持ってきて」などという指示に従う。	
指定した本を1冊持ってくる。	

**ベイリー発達検査 BAYLEY SCALES OF INFANT DEVELOPMENT**

MENTAL SCALE より

0:7	なじみのある単語を選択的に聞く
0:9	ことばへの反応(「バイバイ」と言われて手を振る、「パパはどこ？」に対する反応など)
1:3	靴・洋服・おもちゃ(「あなたの〇〇を見せて」と尋ねる)

<資料2>

「乳幼児言語発達調査」記入用紙（調査の主対象；3歳未満）

調査のお願い

（財）発達科学研究教育センター 理事  
お茶の水女子大学名誉教授  
藤永 保

このたび、私ども発達科学研究教育センターでは、公文公研究所のご協力を得まして、乳幼児（0～2歳児）を主な対象とした言語発達検査を開発することとなりました。ことばの発達には個人差が非常に大きいことから、発達相談や乳児健診などではことばに関する質問や相談が多数出てきます。しかし、現在そのような相談場面ですぐに使えて、乳幼児の言語発達を正しく測定できるようなテストがありません。ことばの遅れの早期発見や療育の開始、親の不安の解消のために乳幼児の言語発達を正確に測定できるテストは非常に有効だと思います。今回の調査は以上のようなテストを作成するための基礎的なデータを得ようとするものです。お忙しいところお手数おかけいたしますが、ご協力をお願い致します。

なお、ご返却いただきました調査用紙は、すべて統計的に処理・分析させていただきます。したがって、個人のデータなどは一切公表されません。

<（ ）内には 印、\_\_\_には適当な語句をお書き下さい>

A. お子さんについて

性別 ( )男 ( )女

生年月日 平成\_\_\_年\_\_\_月\_\_\_日 現在\_\_\_歳\_\_\_ヶ月

昼間主に過ごす場所

( )自宅 ( )母と ( )祖父母と ( )その他 \_\_\_\_\_と

( )保育園 \_\_\_歳児クラス

( )祖父母宅

( )その他 \_\_\_\_\_

いつもよく遊ぶ友達がいますか。 ( )いる ( )いない

B. 母親の就労状況について

( )働いていない

( )働いている 1日\_\_\_時間で週\_\_\_日

C. 家族構成について

一緒に住んでいる人に を、またその中で方言を使う人には をつけてください。

( )祖父 ( )祖母 ( )父 ( )母 ( )兄弟姉妹

( )その他 \_\_\_\_\_ \*計\_\_\_人

兄弟関係 ( )一人っ子

( )\_\_\_人兄弟(姉妹)の\_\_\_番目

D. お子さんの発達状況についてお聞きます。次の項目はいつ頃できるようになりましたか。

・寝返り \_\_\_歳 \_\_\_ヶ月

・つかまり立ち \_\_\_歳 \_\_\_ヶ月

・お座り \_\_\_歳 \_\_\_ヶ月

・歩き始め \_\_\_歳 \_\_\_ヶ月

・ハイハイ \_\_\_歳 \_\_\_ヶ月

・歯がはえる \_\_\_歳 \_\_\_ヶ月

・ストローが使える \_\_\_歳 \_\_\_ヶ月

**乳幼児言語発達調査**

**1. 前言語的音声について**

意味のわかる言葉を話さない赤ちゃんでも、生後2～3ヶ月頃から何らかの音声を発するようになります。1歳未満の子の発する、泣き声とげっぷ以外の音声はふつう、前言語的音声と総称され、音声言語の基礎となるものです。前言語的音声は段階に応じて以下のように3つに分けられます。

- 1) 「クー」, 「アー」など、1音節のもの。
- 2) 「アーアー」など、2音節以上だが単純母音からなるもの。
- 3) 「パバパ」, 「ダダ」など、複数の音節からなり、各音節が子音+母音で構成されているもの。

これらの音声について、どのようなものをいつ頃発していたか、または現在発しているかを、覚えている範囲でお答えください。

\_\_\_\_\_を \_\_\_\_\_ヶ月頃  
 \_\_\_\_\_を \_\_\_\_\_ヶ月頃  
 \_\_\_\_\_を \_\_\_\_\_ヶ月頃

この時期には、息を吐きながら唇を震わせて「ブ～」という音を出し、ツバをとばしたりすることがあります。そのような行動がありましたか。

- ( ) あった \_\_\_\_\_ヶ月頃  
 ( ) なかった

お子さんが声を出して笑えるようになったのはいつ頃でしたか。

\_\_\_\_\_歳 \_\_\_\_\_ヶ月頃  
 どんな笑い方でしたか。 \_\_\_\_\_

お子さんが初めて歌(童謡など)に興味を示したのはいつ頃でしたか。

いつ... \_\_\_\_\_歳 \_\_\_\_\_ヶ月頃  
 曲名... \_\_\_\_\_

どんな反応をしましたか。

- ( ) 泣き止む  
 ( ) 音の方に目や頭を向ける  
 ( ) 手足をバタバタさせて喜ぶ  
 ( ) その他 \_\_\_\_\_

お子さんがテレビ(ビデオ)に興味を示し、じっと見ていたことがありましたか。初めて興味を示したのはいつ頃だったでしょうか。

いつ... 歳 月頃 番組名... \_\_\_\_\_

どんな反応でしたか。( の例を参考にしてお答えください)

\_\_\_\_\_

お子さんが初めて意味のあることばを言ったときのことを覚えていますか。  
いつ、どのような状況で、何と言ったか、お書きください。

いつ... 歳 月頃

どのような状況で... \_\_\_\_\_

何と言ったか... \_\_\_\_\_

## 2. 言語理解について

子どもは言葉を発するよりも前に、耳で聞いた言葉について理解したり、自分の言いたいことを身振りで伝えようとしていたりします。次に挙げるような行動がみられましたでしょうか。( )に をつけ、それが初めてできた時期についてお答え下さい。

( ) 自分の名前を呼ばれると反応する \_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ 月頃

( ) 「まんま」や「おっぱい」という言葉に反応する

\_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ 月頃

( ) 「バイバイ」と言うと手を振る \_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ 月頃

( ) 指差しをする \_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ 月頃

どのような状況で何を指差しましたか。 \_\_\_\_\_

( ) 首を横に振って“嫌だ”という意思表示をする

\_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ 月頃

( ) 「ティッシュ取って来て」、「ゴミ箱にポイして」など簡単な用事ができる

\_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ 月頃

( ) 「ありがとう」や「どうも」という言葉に合わせて頭をペコッと下げる

\_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ 月頃

( ) 家族の持ち物が区別できる \_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ 月頃

( ) オツムテンテンができる \_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ 月頃

\* ここに挙げたもの以外に、1歳ぐらまでの時期に、言葉では言えないが動作を見ているとものごとの名前や内容がよくわかっていると思われることがありましたら、いくつでもお書きください。

### 3. 単語の理解について

お子さんが次にあげる単語を言えるかどうかを、お答えください。段階に応じて以下の記号を( )の中に記入してください。

完全に言える(発音をまねするだけではなく、そのものをわかっている)

不完全、または幼児語だが言える(例; ワンワン、マンマ、モシモシ等)

言えないが、理解はしている

× 言えないし、理解もしていない

? わからない

- |         |                              |         |         |             |
|---------|------------------------------|---------|---------|-------------|
| ( )いぬ   | ( )ねこ                        | ( )はと   | ( )ぞう   | ( )きりん      |
| ( )パンダ  | ( )しまうま                      | ( )魚    | ( )きんぎょ | ( )あり       |
| ( )はっぱ  | ( )ちょうちょ                     | ( )お花   | ( )くるま  | ( )自転車      |
| ( )バス   | ( )電車                        | ( )パトカー | ( )救急車  | ( )チューリップ   |
| ( )飛行機  | ( )ふね                        | ( )パン   | ( )ごはん  | ( )牛乳・ミルク   |
| ( )お茶   | ( )トマト                       | ( )にんじん | ( )バナナ  | ( )カレーライス   |
| ( )りんご  | ( )みかん                       | ( )たまご  | ( )せんべい | ( )プリン      |
| ( )ドーナツ | ( )目                         | ( )鼻    | ( )口    | ( )耳        |
| ( )手    | ( )足                         | ( )お腹   | ( )背中   | ( )まゆげ      |
| ( )かかと  | ( )ひざ                        | ( )首    | ( )空    | ( )雨        |
| ( )石    | ( )丸                         | ( )三角   | ( )四角   | ( )おひさま(太陽) |
| ( )赤    | ( )青                         | ( )黄色   | ( )白    | ( )おつきさま(月) |
| ( )黒    | ( )ママ                        | ( )パパ   | ( )スプーン | ( )フォーク     |
| ( )コップ  | ( )テーブル                      | ( )いす   | ( )オムツ  | ( )帽子       |
| ( )くつ   | ( )パジャマ                      | ( )テレビ  | ( )電話   | ( )時計       |
| ( )ボール  | ( )つみき                       | ( )絵本   | ( )ぶらんこ | ( )すべりだい    |
| ( )タオル  | ( )歯ブラシ                      | ( )だっこ  | ( )これ   | ( )ちょうだい    |
| ( )ない   | ( )いない                       | ( )いたい  | ( )おいしい | ( )ありがとう    |
| ( )重い   | ( )自分                        |         |         |             |
| ( )あ~あ  | 《物が落ちた時など、よくないことがおこったときに発する》 |         |         |             |

### 4. 短い文について

単語を2つまたは3つつなげてできる簡単な文を「二語文」または「三語文」と言いますが、お子さんはどんな文を話す、または話したでしょうか。いくつでもお書きください。もしおわかりになれば、話し始めた時期をお答えください。

例; 二語文「ブーブー、いっちゃった」など      三語文「パパ、かいしゃ、いっちゃった」など

\_\_\_\_\_ (    オ    ヶ月頃)

\_\_\_\_\_ (    オ    ヶ月頃)